資料６－１

令和５年度

発達障害者相談支援研修
「相談支援知識力向上研修」
実施報告

第1回東京都発達障害者支援地域協議会
令和6年2月1日（木）

社会福祉法人　正夢の会
理事長　山本あおひ

研修概要

目的：区市町村の相談支援員やサービス提供事業者に対して、発達障害児（者）支援に必要な体系的・実践的な技術の習得に係る研修を実施することにより、区市町村における発達障害児（者）の支援体制整備を推進する。

対象：区市町村等の相談支援員、放課後等デイサービス、就労継続支援等の障害福祉サービス従事職員等

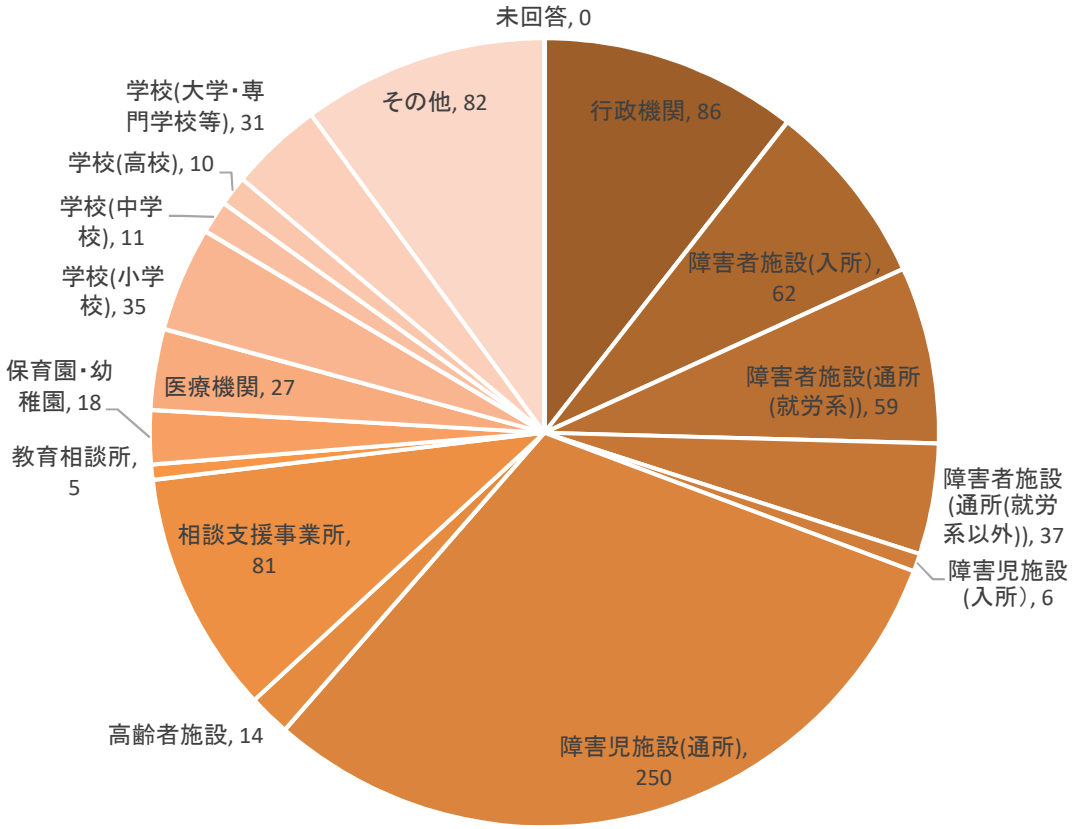
内容

	日程	応募／参加		講義内容	講師	所属
第1回	10月14日（土）	205名中 157名 76.59%	①	発達障害の特性	市川　宏伸氏	日本発達障害ネットワーク　理事長　他
			②	自閉症の人の支援	新井　豊吉氏	東京家政大学　子ども学部　子ども支援学科　特任教授 文京学院大学大学院　非常勤講師
第2回	10月28日（土）	236名中 186名 78.81%	①	構造化	安倍　陽子氏	横浜市東部地域療育センター　公認心理師・臨床心理士
			②	ASDのコミュニケーション支援	諏訪　利明氏	川崎医療福祉大学　医療福祉学部 医療福祉学科　准教授
第3回	11月18日（土）	244名中 177名 72.54%	①	発達障害・自閉スペクトラム症の支援 ～行動障害とＡＢＡに基づいた支援～	井上　雅彦氏	鳥取大学　大学院医学系研究科　臨床心理学講座　教授
			②	発達障害の相談支援	中山　正行	正夢の会　社会福祉士・公認心理師・センター長
			③	アセスメントツールの導入 ～現場の実践から～	森　裕幸氏	帝京平成大学　健康メディカル学部　心理学科　助教 公認心理師
第4回	12月16日（土）	159名中 109名 68.55%	①	「それぞれの専門性を高める」 ～作業療法士の視点から～	酒井　康年氏	うめだ・あけぼの学園　作業療法士・副園長
			②	「それぞれの専門性を高める」 ～言語聴覚士及び心理士の視点から～	志村　みさと	正夢の会　言語聴覚士・支援課長
					結城　綾	正夢の会　公認心理師
第5回	1月20日（土）	－	①	大人の発達障害 ～就労に向けての評価と実際～	梅永　雄二氏	早稲田大学　教育学部　教育心理学専修　教授
			②	発達障害のある大学生 ～学生の自立と家族の支援～	五味　洋一氏	群馬大学 大学教育・学生支援機構 学生支援センター 障害学生支援室長　准教授
			③	成人期デイケアにおける発達障害専門プログラム	横井　英樹氏	昭和大学発達障害医療研究所、昭和大学付属烏山病院 臨床心理士・公認心理師・訪問型職場適応援助者

参加者の概況（所属）

申込者数：８４４人　　参加者数：６２９人　　参加率：７４．５３％
（令和５年度実績：全５回分の第４回までの実績）

【 所属別 】

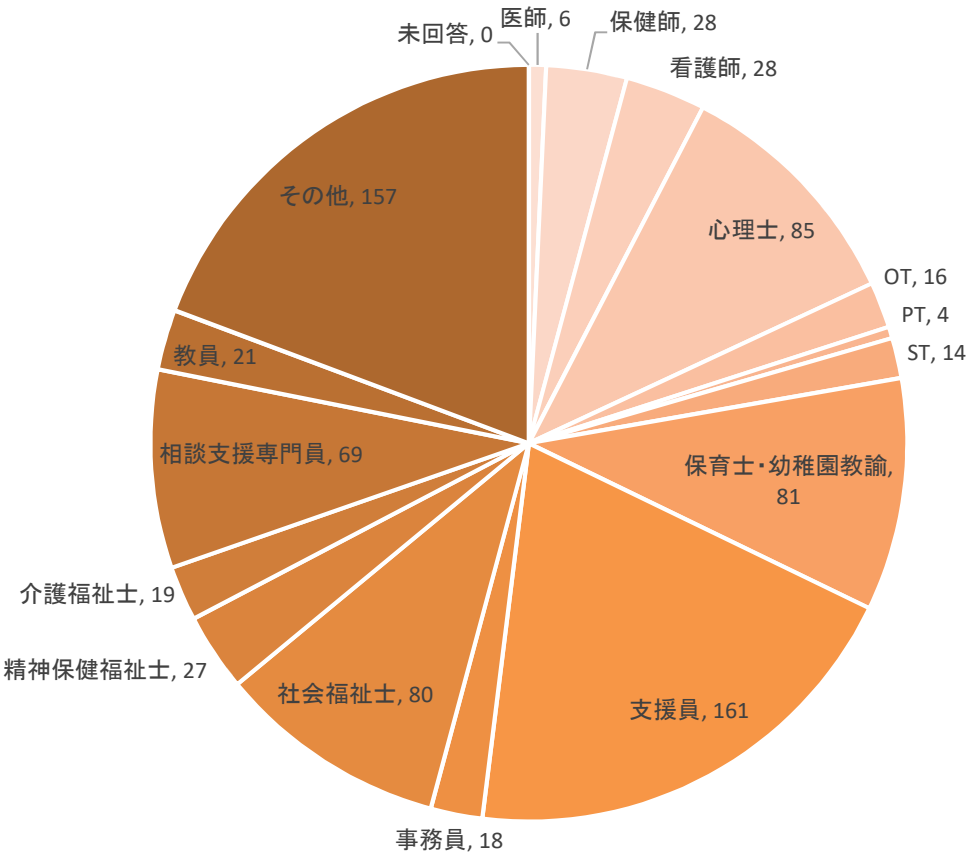


所属別	人数	割合
行政機関	86	10.57%
障害者施設(入所)	62	7.62%
障害者施設(通所(就労系))	59	7.25%
障害者施設(通所(就労系以外))	37	4.55%
障害児施設(入所)	6	0.74%
障害児施設(通所)	250	30.71%
高齢者施設	14	1.72%
相談支援事業所	81	9.95%
教育相談所	5	0.61%
保育園・幼稚園	18	2.21%
医療機関	27	3.32%
学校(小学校)	35	4.30%
学校(中学校)	11	1.35%
学校(高校)	10	1.23%
学校(大学・専門学校等)	31	3.81%
その他	82	10.07%
未回答	0	0.00%
合計	814	100.00%

参加者の概況（職種）

申込者数：８４４人　　参加者数：６２９人　　参加率：７４．５３％
（令和５年度実績：全５回分の第４回までの実績）

【 職種別 】

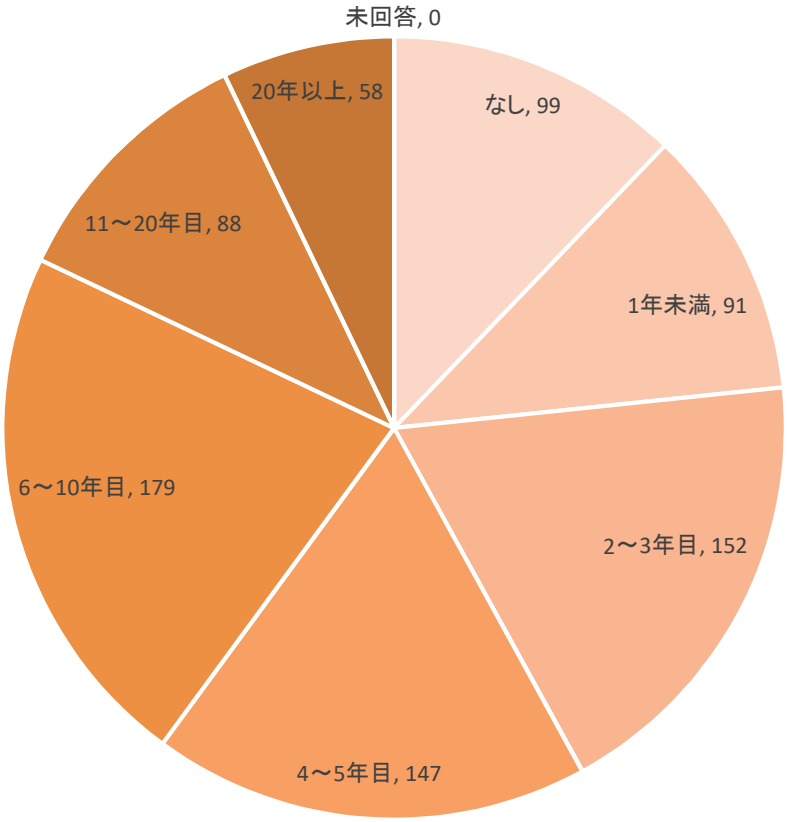


職種別	人数	割合
医師	6	0.74%
保健師	28	3.44%
看護師	28	3.44%
心理士	85	10.44%
OT	16	1.97%
PT	4	0.49%
ST	14	1.72%
保育士・幼稚園教諭	81	9.95%
支援員	161	19.78%
事務員	18	2.21%
社会福祉士	80	9.83%
精神保健福祉士	27	3.32%
介護福祉士	19	2.33%
相談支援専門員	69	8.48%
教員	21	2.58%
その他	157	19.29%
未回答	0	0.00%
合計	814	100.00%

参加者の概況（経験年数）

申込者数：８４４人　　参加者数：６２９人　　参加率：７４．５３％
（令和５年度実績：全５回分の第４回までの実績）

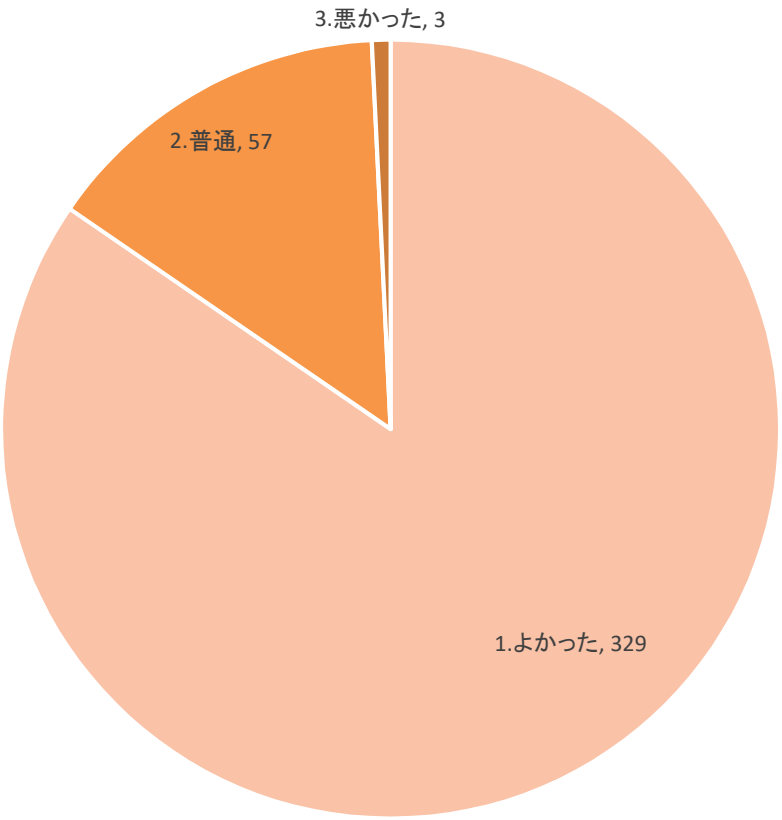
【 経験年数別 】



経験年数別	人数	割合
なし	99	12.16%
1年未満	91	11.18%
2～3年目	152	18.67%
4～5年目	147	18.06%
6～10年目	179	21.99%
11～20年目	88	10.81%
20年以上	58	7.13%
未回答	0	0.00%
合計	814	100.00%

参加者の概況（オンラインについて）

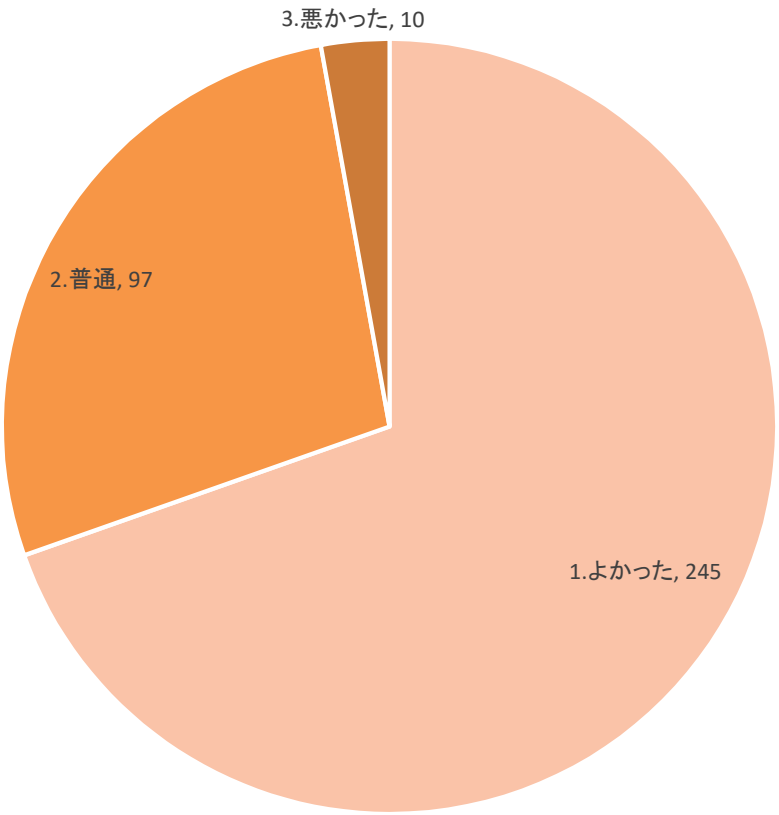
申込者数：８４４人　　参加者数：６２９人　　参加率：７４．５３％
（令和５年度実績：全５回分の第４回までの実績）



評価	人数	割合
1.よかった	329	84.58%
2.普通	57	14.65%
3.悪かった	3	0.77%
合計	389	100.00%

参加者の概況（実施時期・日程）

申込者数：８４４人　　参加者数：６２９人　　参加率：７４．５３％
（令和５年度実績：全５回分の第４回までの実績）



評価	人数	割合
1.よかった	245	69.60%
2.普通	97	27.56%
3.悪かった	10	2.84%
合計	352	100.00%

アンケート結果

①　「発達障害の特性」　市川　宏伸 氏

- 発達障害というのが一部の人のものではなく、社会の中でそれぞれに得手不得手や理解しやすいしにくいなどがあることを少しずつ社会が知るようになり、お互いに生きやすい環境にしていこうという方向に進んでいることがわかった。（みんなと同じことが善というのから少しずつ変化してきている。）
- ソフト面の支援も大事だが、法律の整備や、薬の適宜使用についても学べたので、いつもとは切り口が違い、発達障害を取り巻くハード面を学べてよかった。
- 私が支援をしている中で利用者の苦手さが目につき、その苦手さに注目しすぎてしまうことがあるなと感じました。苦手さへのアプローチだけでなく、その利用者の上手に出来ている所を良く観察しそこを活かした支援を考える事の重要さを改めて思いました。また「発達」についてより知識を深め、状態を正しく分析する力をつけることで、当事者や関係者、ご家族に何ができるのか、何を求められているのかが見えてくるのだと思いました。
- 私は精神保健福祉士ですが、発達障がいに関わるようになり、他の精神疾患と比較して医学知識が職員になく、もちろん私もですが、だからこそ曖昧な知識で服薬をすすめる関係者、受診をすすめる関係者がたくさんいる気がしていました。
- すごく分かりやすくて、医療にどう相談していいか、連携したらよいかイメージがわきました。
- 障害も医療ではdisabilityではないこと、あくまでもちょっと強い脳の特性だとご両親がイメージできたらどんなに意識を切り替えやすいか、と思いました。
- 病いや障害、特性があったとしても一人の人であることがまずあること。そこに誇りをもって、子どもたち、若者に生きてほしいし、そんな支援をしてゆきたいです。
- 発達障害がここまで認知されてきたのは、市川先生を始め、多くの方が、彼らを理解し、障壁を無くしていこうと考え、尽力してきてくださったおかげだと思います。日々、発達障害を持つ子どもたちと接し、その保護者に会って話を聞きます。一人ひとり悩みや障害が異なり、その手立てもたくさんある今、選択し、その子どもにあった支援ができるように、また、新しい情報が次々入る中、柔軟に対応していけるように、相談支援専門員として頑張りたいと思いました。ありがとうございました。
- 発達障害の特性によって支援する側が環境設定をする事で子供達が成功体験を積み自信を築く事ができる。彼らの強みに目を向ける大切さを改めて実感させられる講義内容でした。

アンケート結果

②　「自閉症の人の支援」　新井　豊吉 氏

- 先生のこれまでのご経験に基づく特性のある人びとにとって、周囲の支援者たちが、一番に考えなければならないのはどういうことなのか、当事者目線での支援を心がけなくてはならないのだということを痛感しました。自分が良かれと思っていることが果たして当事者に良いことなのか、その人の人生の先まで見通した支援ができるようになるには、一つ一つの細かいアセスメントと環境設定の考察が必要であると感じました。ありがとうございました。
- 実際の支援動画を見ることでとても分かり易く、とてもタメになりました。なんとなく空気を読み先回りしてしまうことで圧力をかけていることになるのか…と反省。気を付けてはいるものの名人芸にはハッとさせられました。ずっと、支援者が誰でも同じ対応ができるようにというのを考えて支援してきましたが中々うまくいかないこともあり。（当事業所ではできるが、家や学校ではできない等）支援者が居てできることと自分の力でできることの違いに気づくことができました。また、同じではありますが理解してもらうということが先行して自発的なコミュニケーションが後回しになってしまうことが多い気がしました。今後の支援を見直していきたいと思います。
- ビデオがすごくよかった。わかりやすくて、すごく勉強になりました。どんな点をよくみなきゃいけないか、実感できました。私はずっと精神保健福祉分野にいました。子ども支援の現場にきて、いかに子どもたちの人としての権利が犯されやすいかを痛感するばかりです。また、関与しながらの観察という言葉が精神科領域にはあります。関わる自分と相手の関係を見る目をもたなくてはいけない、というものです。まさにそれがないと、子どもたちに大人の自己満足のための支援をしかねない、と実感。気を引き締めて子どもたちに出会いたいです。また、発信が苦手だからこその伝える、断る、主張する、をできるように、個別化した関わりを忘れずに考えてゆきたいです。
- 先生の関わって来られたお子さんは、自分の働いている事業所に来るお子さんよりも意思表出に困難のある方々ですが、共通するところは多々あると思います。特に、「お子さんが特定の支援者のことだけ聞いて動いている状態は名人芸。その人がいなくなればできなくなる。本人が自分でできるようになることが大切」というお話はハッとさせられました。
- 具体的なアセスメント方法や実践方法（氷山モデルやABC分析等）について、詳しく解説いただきながら、実践の動画を交えて深く考察することができたので、大変イメージしやすく、実践の中で活かしやすい内容でした。

アンケート結果

③　「構造化」　安倍　陽子 氏

- 子どもの時から一人で過ごすための余暇の過ごし方を伝えておく必要があるということに関心を抱きました。余暇としてブロックで遊ぶために個別で作り上げ、包装しておしまいにするということも一連の流れとして作るなど参考にしたいことばかりでした。スケジュールも活用していますが、個別化することが出来ているか振り返るきっかけともなりました。
- 構造化が自閉症の方の意味理解を助けるために、生きていくために身に着けるべきことがより伝わりやすくするためにあるということで、何のためにそれをするのかという意義を関係者で共有する説明力をもつこともまず大事だと思いました。
- 成人の入所施設(生活介護)で働いておりますが、構造化についての知識や経験が乏しく支援には頭を悩ませることが多くあります。今回の研修を受け、この構造化ならばあの利用者にハマるのではないか、もっとアセスメントを取って構造化を見直そうなど思いました。同じ施設内に特性が似ていると感じる利用者がいて、お二人とも同じような支援にしてしまっていましたが改善してみようと思います。
- 構造化の意図や具体的な方法について詳しく学ぶことができ、とても参考になりました。教室レイアウトの一つからでもそれぞれが過ごしやすい環境設定の工夫がいくつもされていることが理解できました。事業所で作業を実施しているのですが、内容や指示書を使用する等取り入れていきたいことが多くありました。ありがとうございました。
- 構造化の大切さは分かっているものの、思い返せば再構造化までいかず使えないものになり、いつの間にか使われなくなってしまっていたな…と。全スタッフに理解してもらえるようにしっかり伝えていくことが必要で、みんなが個別化の重要性に気づき再構造化できる環境づくりを今後行わなくてはならないと気づきました。また職員が子どもの状態を把握しやすく必要な課題がわかるようにインフォーマルなアセスメントをもっと詳細かつ分かり易いものにしていったり、教材等を構造化し使いやすく整理整頓したりすることで、職員も子どもも上手に活用していけるのではと思いました。

アンケート結果

④　「ASDのコミュニケーション支援」　諏訪　利明 氏

- ASDの方のコミュニケーションについて、いかにその方のニーズに合った方法を考えられるかが大切だなと思いました。比較的言葉の理解が難しい方への表出と受容のコミュニケーション方法と、言葉を話せる方の社会的プラズマティクスへの支援、両者も同じくらい当事者は困ることだと思うので、「言葉で通じるからこれでよい」とするのではなく、コミュニケーションの上で困っていることに丁寧に手助けができるようにしていきたいです。
- 成人の入所施設で働いておりますが、日々の支援の中で言葉に頼る場面が非常に多いなと考えさせられました。私の施設に入所されている方は高齢から20代の方まで年齢の幅は様々です。特に高齢の方ですが、療育の有無でやり取りの困難さに差があるのかなと思い、支援者側がコミュニケーションを取ることを諦めてしまうことがありましたが、一人一人に合ったコミュニケーションを自分自身が取れていなかったのではないか？と気付かされました。利用者とお互いに一方的に様々要求しあってしまうこともしばしばあります。評価の仕方やツールなどを知ることができ、今後の支援に生かさせていただきます。ありがとうございました。
- 自閉症の方のコミュニケーションのつまずきを一から学び、簡単なことではないんだと改めて感じることができた時間でした。言葉で伝えられる人も伝えることが難しい人もそれぞれ困るポイントが個々に違い、アセスメントがいかに重要なのかも学ぶことができました。言葉で伝えるだけでなく、今後は視覚的なサポートも選択肢に入れて考えていきたいと思いました。ありがとうございました。
- 言葉を理解している・できると思い込んでいる職員が子どもに伝わらなくて何度も言葉を繰り返しているのは確かにコミュニケーションではなく一方的な彼らの言葉と何も変わらないという話はとても考えさせられました。今までもコミュニケーションの支援をしてきましたが、保護者のニーズを優先的にしてしまっている現実もあり、受容性コミュニケーションを支援する目標が多かったように感じます。この講義を聞けたことで保護者にしっかりと表出性コミュニケーションの重要性や言葉だけがコミュニケーションではないこと等を、自信を持ってお伝えできると思います。たくさん見直すことはありますが全職員に共有し支援を改善していけたらと思いました。
- 専門的な内容だったのですが、私の勉強不足により、講義時間内では全体内容の理解を深めることが難しかったので、資料を読み込んで学習を深めたいと思います。

アンケート結果

⑤「発達障害・自閉スペクトラム症の支援～行動障害とＡＢＡに基づいた支援～」
井上　雅彦 氏

- 井上先生の支援に関する考え方にふれることが出来てよかったです。資料を読むだけではわからない、言葉の端々から感じられる障害や問題行動に関する先生の視点が支援を行っていく上で大変勉強になりました。行動に焦点をあてることで「ASDの〇〇さん」というような先入観を少なくすることができるということ、問題行動をなくすことがゴールではなく、それを通して社会参加とQOLが向上することがゴールなのだということを考えて、困っている方々を支援していきたいです。

- ABAについて、具体例を通して話していただき、わかりやすかった。特性があってもそれが問題として顕在化するのは、環境によるものであることは非常に納得できる。ただ、先生のお話の通り、現場では、なかなか行動変容が難しい時があり、その時には、記録を取り直したり、改めて、その行動が問題であるのか、考えてみたりする必要を感じた。

- 行動分析学の内容や支援への応用の仕方について、すごくわかりやすく学べました。そして、環境調整が行動変容に結びつく事例を通して障害は環境との関わりの中に発生するということ、ご本人の人格が障害なのではないのだということを再認識させられました。

- 自閉症の問題行動の行動分析を具体的に説明してくださりよかったです。アセスメントからの環境調整と代替行動の支援は高い専門性とチームとしての取り組みが大切であることがわかりました。ありがとうございました。

- 応用行動分析ににについてさらに詳しく学ぶ必要があると改めて感じました。問題となっている行動がご本人にとってどうであるのか、問題行動とされる行動が生じる前の場面や環境はどうであったのか、等、改めて考え直す（再アセスメントする）必要があると思いました。

アンケート結果

⑥　「発達障害の相談支援」　中山　正行

- 地域のよって資源の違いがあると感じ、成人期でもアセスメントや継続面接が可能であることがうらやましいと思いました。同様のニーズでのご相談を受ける立場で、そして成人期の相談が年々増える状況です。子どもの場合は資源が増えて選択肢が広がったと感じますが、成人に対し、ご紹介いただいたように同じような対応を行う仕組みがなく、代わりとなる情報に繋ぐことも、様々な制約で叶わないことが多々あります（成人期は親のサポートを受けることができない方も多くおられます）。心理職など現場からの声を届ける機会も乏しいため、どうぞ他の自治体（特に施策を決める立場の行政の職員に対し）にも啓蒙をお願いいたします。ありがとうございました。

- ケースを示していただいたことで、アセスメントのためのテストバッテリーの組み方からアセスメント、実際の支援方法へとつなぐイメージが具体的に沸いた。

- 発達相談の支援をしているので参考になった。幼児教育の現場のため、インフォーマルなアセスメントをとって支援を行っています。発達センターでフォーマルなアセスメントをとって保護者に見せていただく機会がないと見ることが出来ない状況です。現在大変混んでいるということで、発達センターの相談に至るまでにも３～４ヶ月待ちです。発達検査は、5歳児になったからと言うケースが多いです。

- 講義Ｉの感想と同じように、日頃それぞれ違った障害、歳の違いの利用者様に関わり、また、関わる職員も一人一人違った感性等もある事。歳に応じた実際のお話から、行動分析等による解決策等へとの話がとても勉強になりました。

- 幼少期だけではなく学齢期、青年期、成人期とステージ毎の事例をお話しいただけたのでイメージしやすかったです。また、支援の導入から支援経過を詳細に伝えていただいたのでヒントとなる考え方、関わり方が得られ、今後の参考になりました。
- ゆったりとした進行で、『理解する時間』を与えて頂いたので、とても良かった。内容を理解した上で、次に進めた。

アンケート結果

⑦　「アセスメントツールの導入～現場の実践から～」　森　裕幸 氏

- アセスメントツールは、バッテリーで評価をすることが必要だと感じた。PARS-TRに大変興味がわき、研修を受けたいと思った。

- 他で実施されたアセスメント結果をもとに相談を受ける立場ではありますが、それぞれの検査の特徴を学びながら、実際の本人へのサポートに反映させていけるよう、日々の支援に役立てていきたいと思いました。ありがとうございました。

- PARS-TRについて詳細に知ることができとても勉強になりました。医師や心理士にならないとこういったツールは使えないと思っていたので興味深かったです。先生が強調していらっしゃったように支援ツールとして使えるのが魅力的だと思いました。使いこなせるくらい研鑽したいと思います。

- 実際の出来事を通し、様々な相談事等から、アセスメントのやり方、また、分かりやすいコミック会話等の説明、資料が、難しく、勉強不足である自分ではありますが、分かりやすく参考になりました。

- 知能検査や発達検査で発達障害の特性があると思い込みがちな自分を反省しました。現場で支援をする際に困るのは自身の無知や学びが足りないことが大きいと感じています。早速職場の心理職と話をしようと思います。

- 私たちは診断出来ませんが、ASDの指標となりえる検査等について、具体的により詳細にご教授頂きました。また、アセスメントの仕方や具体的な支援、保護者フォローについてお話を頂いたので大変参考になりました。先生の保護者相談支援での伝え方についても具体的で大変勉強になりました。

- 内容はもちろんすばらしい。さらに若手？講師の活躍は多くの若い参加者に勇気を与えるのではないだろうか

アンケート結果

⑧　「「それぞれの専門性を高める」～作業療法士の視点から～」　酒井　康年氏

- 放課後等デイサービスで働く作業療法士です。事例を踏まえ、作業療法士としてどのような視点を持って、評価・介入をしていけばよいか、とてもわかりやすいセミナーでした。作業の分析の方法について、学校の環境・家庭の環境を考えるためにどのような視点で考えればよいか迷いどころであったので、教わったことをもとに実際の支援で活かしたいと思いました。
- はじめに先生が言われた「多職種連携で意見が違ってもいい 必要なのは多職種の考え方を尊重して違った意見の中から考えていくこと」という言葉が印象的だった。内容も同じ作業療法士という視点からでも、改めて作業の捉え方を学びました
- 事例について、検討の結果の答え（として見出した結論）にとても驚いたが、とても理にかなっていた。OTさんの考え方と分析の細かさに脱帽した。個人が行動や活動にどのような価値を見出しているのか知ろうとすること、状況や機能の改善=幸せ、ということではない、という考え方を知り、現在担当しているお子さんの支援の方向性を今一度考え直そうと思った。
- PEOモデルでとらえる視点が大変参考になった。つい、目の前に見える課題や保護者等の訴える主訴に引っ張られがちであるが、そこから実際の課題は何か、それを解決するための具体的なアイディアを導き出す視点を今後の支援に活かしていきたいと感じた。
- 基幹支援センターの相談支援専門員です。今年度主任相談支援専門員になり、スーパービジョンを行うことが増えてきました。様々なケースが持ち込まれますが、相談員だけや保護者だけで抱えてしまい疲弊している方の多さに驚かされます。講義にもありましたが多職種連携とは言ってもなにをしている人なのか、よくわからないまま検討が始まってしまい煮え切らない会になってしまうこともまだまだ多く、まずは相手を知ることや、その職種の考え方を理解できる機会づくりも進めて行きたいと感じました。ありがとうございました。
- 以前私は国立の身体障害のリハビリテーション病院に勤務していて作業療法士の方々とも一緒に働いていた。そこで初めて作業療法士という職種の実際を知ったように思う。主に脊髄損傷の患者さんの残存機能を最大限に活かして実際の生活の場面で再び日常生活ができるように関わっていた。様々な補助具などの工夫や製作もされて患者さんの日常生活動作の向上につなげていた。今まで作業療法士は主に身体障害者を対象にされる職種だと思っていた。今回の研修では知的障害の方々にも対応されていることがわかり専門性についてわかることができた。「作業」ということをとても一部的に軽く捉えていたように思う。当事者の困りごとに対応するために、先生の視点ではアセスメントの内容・項目がこんなにあるのかというくらい多くて驚いた。そして、対象者の価値観にフォーカスして作業分析をしている。そうした丁寧なアセスメントに基づく評価等から適切な解決すべきことが導かれることが分かった。「何か（作業）」がどんどんリンクしていく「作業的存在」、「作業の力」を今回の講義で知ることが出来て、改めて作業療法士の専門性を理解できたように思う。

アンケート結果

⑨　「「それぞれの専門性を高める」～言語聴覚士の視点から～」　志村みさと

- 日々の療育において子どもたちへの具体的な関わり方が学べました。言語聴覚士としても具体的に行っていきたいことが明確になりました。自分は認められる存在であり、安心できる場であることを伝え、改めて強く向き合っていきたいと思います。

- 具体的な共通のケースを言語聴覚士の方と心理士の方とでアセスメントしていただけたことで、その共通性とベクトルの違いが見え、大変わかりやすかった。

- 保護者視点ではどうみえているかの視点もあり、とても参考になりました。それぞれの問題意識としては、どうしても視野がせまくなりますが、第三者（保護者ー担任の保育士、に、例えば保育所等訪問支援担当が訪問）が介入するだけでも、大きく世界が変わるように思いました。（実は保護者当事者でもあるので。）専門職視点では、介入度については経験等が必要になるかもしれませんが、制度は充実し、それをコーディネートできる人や組織が増えるよう取り組みたいと感じました。

- 当職場にもSTの方が勤務していますが、そもそもどんなお考えをお持ちであるかを改めて伺ったことはなく、直接的でテクニカルな話ばかりしているからか、かみ合わないことも多い現状です。今回の研修ではそうした面を押させていただきながらSTさんがアセスをとるとこういう視点になるのだということがよくわかりました。次回からSTとやりとりする際はこの研修で得たことを思い出しながらやり取りしてみたいと思います。

- 専門的な用語も多かったように思うが、最初から障害のある人という捉え方ではなく、生活するうえで困っている人として関わっている感じを受けた。STの方々とも以前リハビリテーション病院で勤務していたことがあったが、本当に対象者の方々への対応が皆さん優しくて丁寧だなと感心していました。とても勉強熱心でもあり、MRIなどの読もよくとられていた印象です。今回の講義で詳しくSTの専門性について知ることができた。

アンケート結果

⑩　「「それぞれの専門性を高める」～心理士の視点から～」　結城　綾

- それぞれの専門職が自らの知識を磨き高める事は大きく貢献出来、多職種連携もする事により相互理解も出来より豊かなQOLの向上に繋がると思いました。

- 支援者としての心構えや具体的な支援方法を示していただきとても勉強になりました。心構えとして、初回の主訴をそのまま決めつけず、そこから推測される本当の困り感を一緒に考えていく、保護者とともに本人の頑張りや喜びを共有することで保護者の抱える思いに寄り添いながら良い循環を作っていく役割であるという姿勢が大切であることを学びました。

- 「支援者側の勝手な理解で支援をしない」というお話がとても勉強になりました。当たり前の事ですが、支援をしていく中で支援者側の理想や考えを気付かないうちに強要しないように児童や保護者の話をしっかり聞き取り適切な支援ができるように心がけていきたいと感じました。ありがとうございました。

- 私も専門職ですが、本当に色々な方々がいらっしゃいます。かみ合わずせっかく勇気を出して相談に来所されたかたが離れてしまったこともあり、日々反省の連続です。最後におっしゃっておられましたが、スポットライトの数が増えるほどその人が輝くというお言葉に深く共感したところです。多職種連携を深めつつもクライエントに寄り添った相談がもっとできるようになれればと感じた次第です。素敵な研修をありがとうございました。

- 当事者の困りごとの解決に導いていくということより、その方たちといかに話しやすい良好な人間関係を作るかということを大切にしていることが伝わった。私は看護師であるが、もっとケアする人たちに良い看護が提供できるのではないかと心理士を目指したこともあったがなかなかハードルが高く断念した。心理士の方の働き方としては多職種との連携ということでは常に必要とされているのではないかと感じた。今回の講義で心理士の専門性について知ることができた。

令和５年度

医療従事者向け講習会
実施報告

第1回東京都発達障害者支援地域協議会
令和6年2月1日（木）

社会福祉法人　正夢の会
理事長　山本あおひ

研修概要

目的：発達障害児（者）への対応に係る講習会を実施することにより、発達障害に対応可能な医療機関の確保を図り、発達障害児（者）への支援を担う人材を育成する。

対象：医療機関・保健センター等の医療従事者等

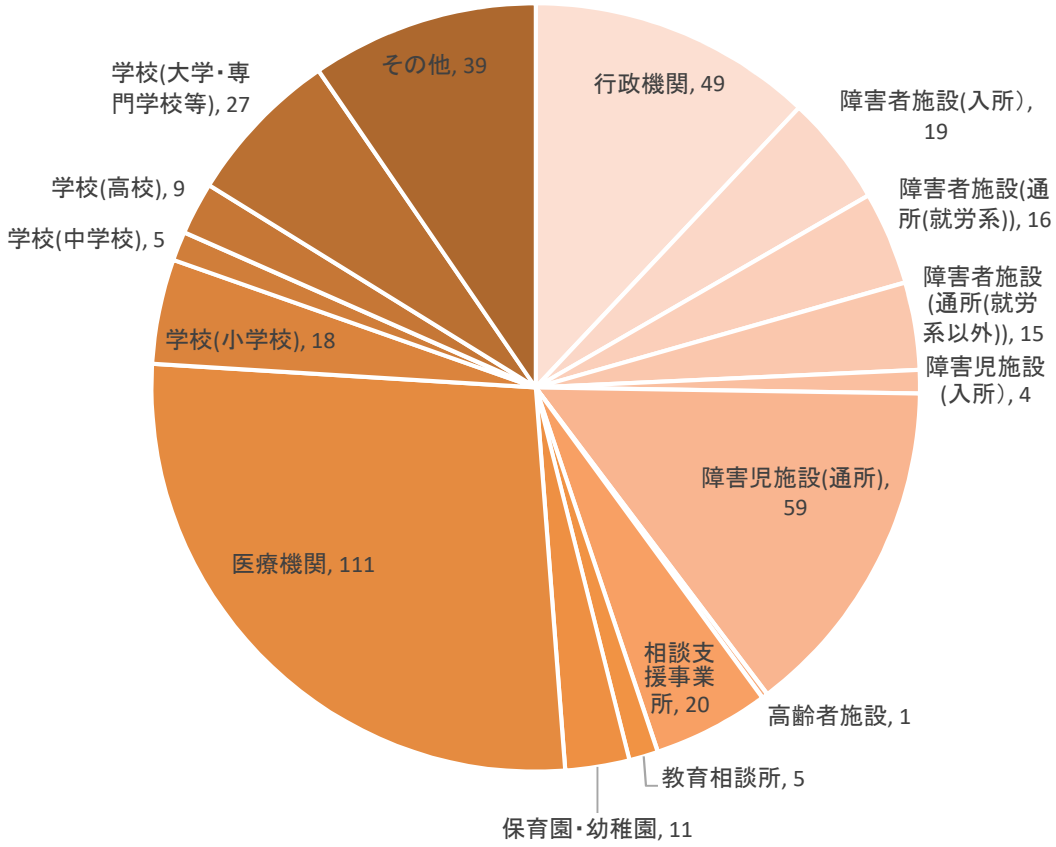
内容

	日程	応募／参加		講義内容	講師	所属
第1回	9月10日（日）	118名中 102名 86.44%	①	発達障害と地域連携	本田　秀夫氏	信州大学　医学部　子どものこころの発達医学教室　教授
			②	発達障害と強度行動障害	會田　千重氏	独立行政法人　国立病院機構　肥前精神医療センター 統括診療部長
第2回	9月24日（日）	114名中 82名 71.93%	①	発達障害と引きこもり	内山　登紀夫氏	一般社団法人 発達精神医学・心理学研究会　代表理事　他
			②	発達障害と生物学的背景	岡田　俊氏	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター　精神保健研究所　知的・発達障害研究部　部長
第3回	10月22日（日）	84名中 61名 72.62%	①	発達障害と二次障害	成田　秀幸氏	国立重度知的障害者総合施設のぞみの園　診療所　診療部長
			②	発達障害と行政	石黒　雅浩氏	東京都福祉局　障害者医療担当部長
第4回	11月12日（日）	114名 85名 74.56%	①	成人発達障害と医療	柏　淳氏	ハートクリニック横浜　院長
			②	発達障害と教育	星山　麻木氏	明星大学　教育学部　教育学科　教授
第5回	12月24日（日）	－	①	発達障害と司法	枡屋　二郎氏	東京医科大学病院こどものこころ診療部門　准教授、法務省非常勤矯正医官（茨城農芸学院）　他
			②	発達障害者支援センターとは	岡田　祐輔氏	発達障害者支援センター全国連絡協議会　会長　他
第6回	1月28日（日）	－	①	発達障害と家族	市川　宏伸氏	日本発達障害ネットワーク　理事長　他
			②	発達障害と当事者	尾崎　ミオ氏	東京都自閉症協会　副理事長　他
					神宮　慎之介氏	東京都自閉症協会　世田谷区受託事業「みつけばハウス」　職員

参加者の概況（所属）

申込者数：４３０人　　参加者数：３３０人　　参加率：７６．７４％
（令和５年度実績：全６回分の第４回までの実績）

【 所属別 】

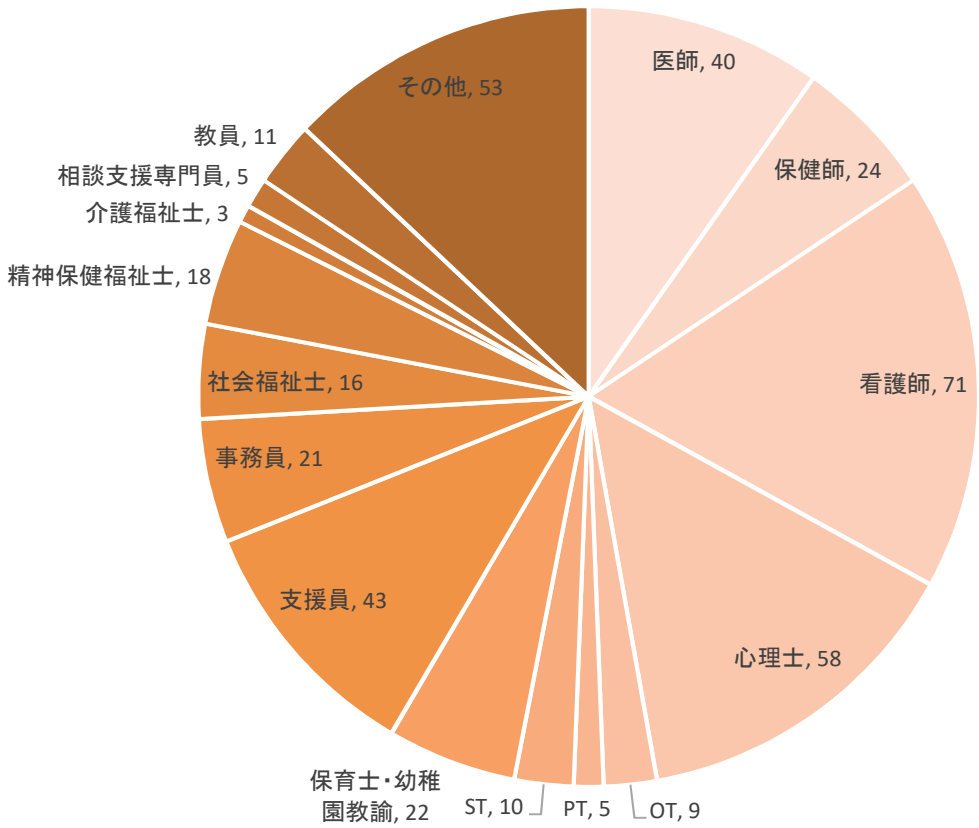


所属別	人数	割合
行政機関	49	12.01%
障害者施設(入所)	19	4.66%
障害者施設(通所(就労系))	16	3.92%
障害者施設(通所(就労系以外))	15	3.68%
障害児施設(入所)	4	0.98%
障害児施設(通所)	59	14.46%
高齢者施設	1	0.25%
相談支援事業所	20	4.90%
教育相談所	5	1.23%
保育園・幼稚園	11	2.70%
医療機関	111	27.21%
学校(小学校)	18	4.41%
学校(中学校)	5	1.23%
学校(高校)	9	2.21%
学校(大学・専門学校等)	27	6.62%
その他	39	9.56%
合計	408	100.00%

参加者の概況（職種）

申込者数：４３０人　　参加者数：３３０人　　参加率：７６．７４％
（令和５年度実績：全６回分の第４回までの実績）

【 職種別 】

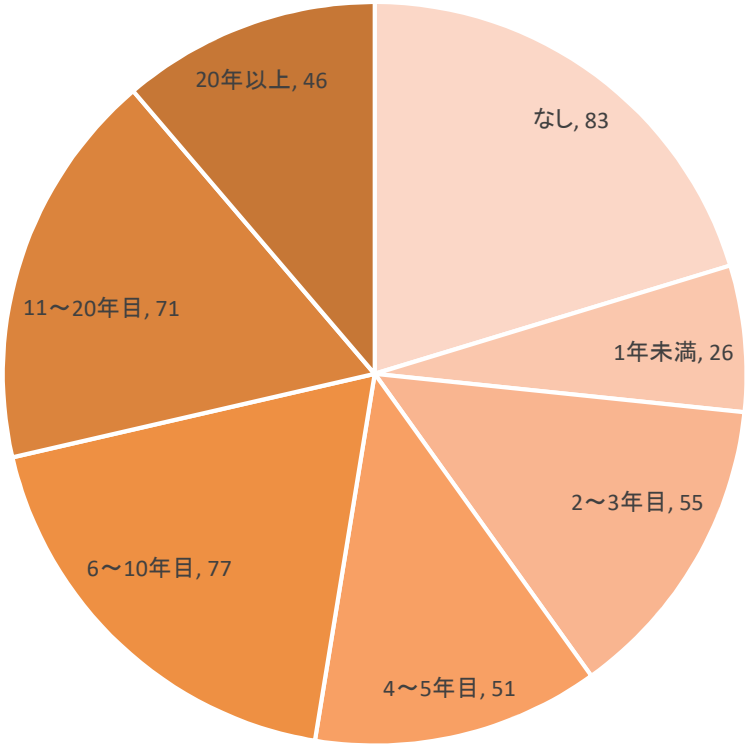


職種別	人数	割合
医師	40	9.78%
保健師	24	5.87%
看護師	71	17.36%
心理士	58	14.18%
OT	9	2.20%
PT	5	1.22%
ST	10	2.44%
保育士・幼稚園教諭	22	5.38%
支援員	43	10.51%
事務員	21	5.13%
社会福祉士	16	3.91%
精神保健福祉士	18	4.40%
介護福祉士	3	0.73%
相談支援専門員	5	1.22%
教員	11	2.69%
その他	53	12.96%
合計	409	100.00%

参加者の概況（経験年数）

申込者数：４３０人　　参加者数：３３０人　　参加率：７６．７４％
（令和５年度実績：全６回分の第４回までの実績）

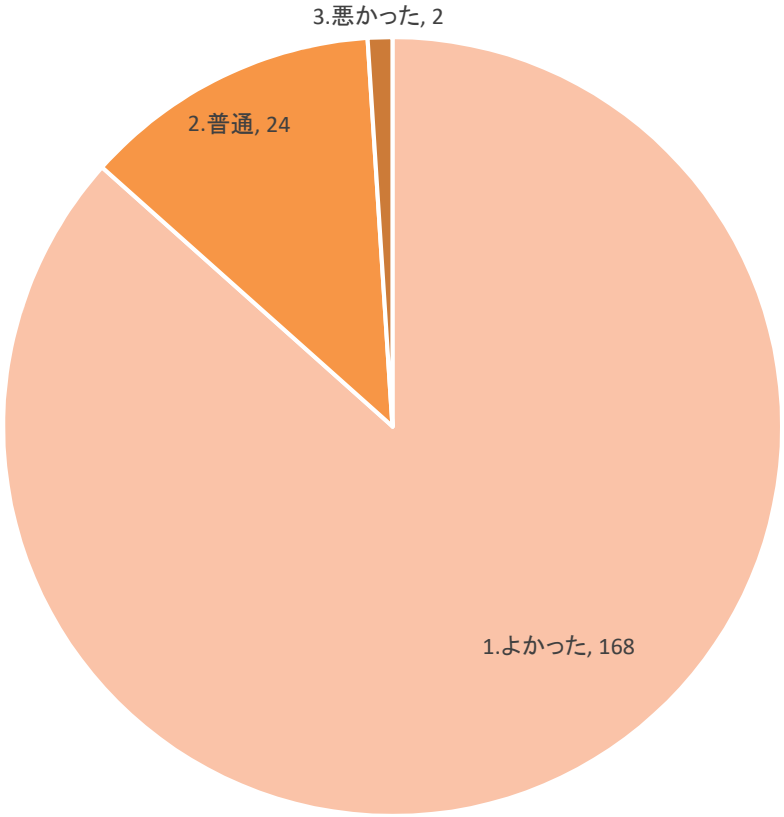
【 経験年数別 】



経験年数別	人数	割合
なし	83	20.29%
1年未満	26	6.36%
2～3年目	55	13.45%
4～5年目	51	12.47%
6～10年目	77	18.83%
11～20年目	71	17.36%
20年以上	46	11.25%
合計	409	100.00%

参加者の概況（オンラインについて）

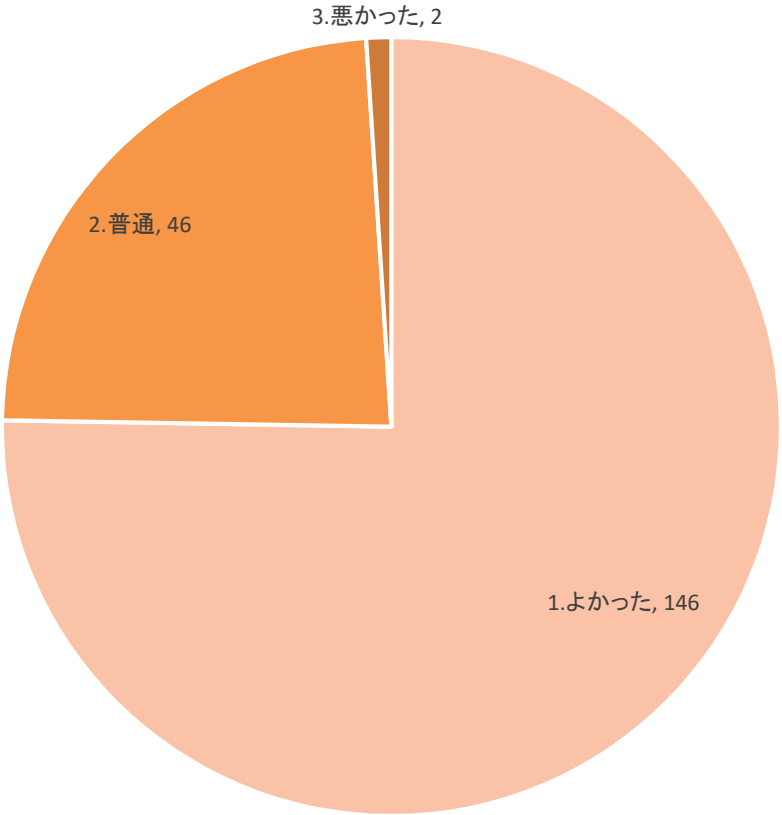
申込者数：４３０人　　参加者数：３３０人　　参加率：７６．７４％
（令和５年度実績：全６回分の第４回までの実績）



評価	人数	割合
1.よかった	168	86.60%
2.普通	24	12.37%
3.悪かった	2	1.03%
合計	194	100.00%

参加者の概況（実施時期・日程）

申込者数：４３０人　　参加者数：３３０人　　参加率：７６．７４％
（令和５年度実績：全６回分の第４回までの実績）



評価	人数	割合
1.よかった	146	75.26%
2.普通	46	23.71%
3.悪かった	2	1.03%
合計	194	100.00%

アンケート結果

①　発達障害と地域連携」　本田　秀夫氏

- 地域の連携が重要なのは知っていたが、看護師として患者や親にどのように関わって行けばよいか具体的に知りたかったので、実例を挙げて頂いた講義は参考になりました。

- 今回特に早期療育への考え方を改めて考える機会となりました。もっと正しい考え方を広める事で変わっていく事も多いかと思います。また、様々な調査のデータもわかりやすくまとめてお伝え頂けたこと、有難かったです。もっとこういった調査が全国的に、長期的にできていくと、解る事が沢山あるのかと実感しました。

- エビデンスに基づく事例をたくさん示してくださり、現実の実態を明確にご教示頂けて事はよかった。ＩＱと予後について理解が進み、集中的に関わるより早期に穏やかに継続する事の大切さを改めて実感した。

- 専門用語が多く後で調べたりする時間を要したが、興味をもてる内容でした。保育士の先生が保護者に伝えたいけれど悩んでしまう実態や、我が子が発達障害かも？と悩みながらもどこにいけば判断してもらえるかわからず不安に感じながら生活している方もいるという実態に共感しました。

- 冒頭、通常学級在籍する特別な教育的支援の要児童生徒の調査結果（文科省）は、他研修でも確認していましたが、現場感覚に合致してきた数値との言葉に私も納得する思いでした。また、超職種型チームは、やはり現場感覚に適合したものと想像しました。また、現場で感じることは、スペシャリスト兼ジェネラリストが活動しやすく、私が目指しているものでもあります。さらに、神経発達症の子どもと家族への地域支援の基本モデルのレベルⅠ～Ⅲを想像したとき、まさしく理想的な支援構造と思いました。ご案内いただいた、Q-SACCSも見てみます。この度も、本田先生の歯切れの良い語りと、穏やかな発話のなかに篤い想いがますます嬉しく、励みになっております。これからも宜しくお願いいたします。

アンケート結果

②　「発達障害と強度行動障害」　會田　千重氏

- 医学モデルではなく、社会モデルの考えを医療従事者がしっかり理解する事が必要だとおもいました。福祉現場での看護師ですが、医療的ケアの必要な方が増えている中、医療の知識とスキルなど医療技術だけでは対応できないと確信しております。多くの医療者に強行の理解を浸透させる必要があると思います。地域で支えていくには医療者の教育現場にも障害福祉の理解を深めるカリキュラムが必要だと思います。

- 医療だけでなく、やはり多職種との連携や情報、社会的介入が必要というところの理解ができました。また、問題行動の捉え方、ひとつの行動にもいくつかのきっかけが考えられることがわかり、丁寧にアセスメントしていくことで、関わり方も変わっていくことがわかりました。

- 強度行動障害を伴う伴わないに関わらず、SPELLが重要であることはこれまでも痛感し、実践してきたつもりである。ただ、意思決定支援については、十分な選択肢の提供ができていなかった、と改めて反省させられた。今回、具体的にPECSの活用などもご提示いただけ、実践につなげやすい内容で大変勉強になった。

- ストラテジーシートの例も、具体的で分かりやすかった。発達障害以外でも、行動の裏にある本人の特性、状態、環境などの把握は必要だと思うので、ぜひ支援にいかしたい。

- 障害者、特に強度行動障害のある障害者にとって、医療と学校、医療と福祉が直接連携してもらうことがとても重要であると思いました。昨年に引き続き、専門性の高いリアルな内容でとても勉強になりました。

アンケート結果

③　「発達障害と引きこもり」　内山　登紀夫氏

- 「ハッピーの確認」は大事な視点だと感じた。福祉分野で働いているがご本人のこだわりが強いケースなど、保護者や支援者の中にも「教育的に教えこむ」気持ちを持ったり、方法をとる場合があるように感じる。この視点を意識して共有する機会を持ちたいと思った。

- 先生の出して下さった事例、ある意味カルチャーショックでした。「ひきこもりはひきこもりのままでも良い」という発想は正直、カルチャーショックでした。でも言葉を裏返せば「ASDはASDのままで良い」無理に社会性スキルを修正する事にこだわってはいけないんだという意味でもあるんだと講義を聞きながら理解をしました。訓練と言うとどうしても常識の社会スキルを身につけさせようとしてしまいます。もっとありのままの姿を支援者側も受け入れるよう意識していけば、ストレスが無くなるのではないかと感じました。

- ASDのような自閉症スペクトラムに関する知識が、支援者にとって今一番必要な時代になりました。今日のような医学的見地の専門知識を学べる研修を組織がもっと積極的に立ち上げてくれればと感じました。

- 具体的な調査や事例から、現在の発達障害とひきこもりの実態が浮かび上がってきて大変勉強になりました。ASD支援の原則に「社会参加へのリスクをアセスメントすること」とありました。思春期から様々な症状を呈し、保護入院に至った当事者家族の立場からすると、これが一番難しいことだと感じております。貴重なお話をありがとうございました。

- 2本観た動画がとても印象的でした。感覚過敏も小児科医からは、「慣れることが大事だ」と言われてそう思っていたけど、今回の勉強で、「過敏は簡単に慣れることがなく、特性を理解し、個人を変えることを無理にしないことが大事だ。」ということを学びました。不登校はさまざまな要因が重なって起きていることも理解できました。

アンケート結果

④　「発達障害と生物学的背景」　岡田　俊氏

- 発達障害とひとくくりにしているが、さまざまの歴史的背景や生物学的な背景が絡み合っていることが理解できた。難しく理解しづらい部分もあったが、今後理解していきたい。最後にあった、彼らがどんな世界で生きているのかを考え、理解しようとすることが大切であることがとても印象に残った言葉であった

- 感情を抑え切れず怒りをぶつけたり、大きな声で暴言を吐いたりして支援者とうまく行かず、支援者が疲弊するという事を繰り返しています。支援者は私で3人目です。ASDについての医学的講義とても参考になりました。ワーキングメモリーが低い事から抑制機能も低下している事、感情のコントロールが出来ないから怒りをぶつける。でもワンテンポ遅れて理性が来る…経験してきた事がきれいにはまって、不謹慎な言い方ですが、気持ちがすっきりしました。先生の講義を受けて、まだ頑張ってみようと力を貰いました。ありがとうございました。また機会がありましたらお話お聞きしたいです。

- 発達障害についてさまざまな視点・定義から講義していただきとても興味深かった。発達障害者支援法に政令で定めた障害が脳機能の障害であることから、「脳機能と知的機能」「脳機能と生活機能との関係」の項目はとても分かりやすかった。発達障害についての理解が深まった。

- 知的障害、発達障害、鬱などの関係性が理解できた。また、自閉スペクトラム症と緘黙症との区別の難しさなど知ることができた。

- 内容の濃いお話を聞かせていただいた。自閉症スペクトラム症の診断基準には本人の体験的な視点が足りないことに気を配るべき、というお話が印象的だった。

アンケート結果

⑤　「発達障害と二次障害」　成田　秀幸氏

- 現在担当している方が発達障害の診断を受けたのは、大学卒業後の就職先でパワハラによるうつ病を発症したのがきっかけでした。二次障害のとらえ方が体系的に学習できた。

- ASDを持つ30代男性の就労支援をしています。とても参考になりました。発達性トラウマ障害の支援「トラウマインフォームドケア」もとても参考になりました。以前発達性トラウマ障害をもつ男性を支援した経験があります。支援者側である私自身も傷つき失敗を経験しました。自信を無くしていたのですが、今回、きちんと学んで挑めば良いんだという事が分かり、怖がらずにまた支援してみたいと思い直せました！ありがとうございました。

- 一つ一つ細かく説明して頂き、今まで何でだろう？と思っていたことが初めて確信に変わりました。

- 二次障害とPTSD、トラウマ、との関係にも着目する必要があることがわかった

- 配信トラブルはありましたが、わかりやすかったです。

アンケート結果

⑥　「発達障害と行政」　石黒　雅浩氏

- 行政の施策はややこしいと感じており、資料によって大分整理されましたが、似ている名前の事業が多く、厚生労働省と子ども家庭庁との担当の違いなどがまだいまいちよく分からなかったです。また、現在行われている事業をもう少し具体的に（どこに委託し、どこが主体的に行っているか、等）を知りたかったです。

- 前職は障害者の就労支援を行う行政にいて大枠は知っていたが、施策等の知識を更新することができた。

- 東京都で障害者の就労支援を行っています。たまたま友人が教えてくれたので、今回参加させていただきました。最近は、発達障害の支援がとても多くなりました。それなりに、学んできたつもりでおりましたが、最近の医療情報や支援制度について勉強不足だったことを知らされました。とてもよい経験でした。特に「早期発見のツール」M-CHAT、 PARS-TR、 CLASPの話、ペアトレ、ペアプロもとても勉強になりました。今後の業務に生かせていきたいです。　東京都が令和3年に立ち上げた「東京都障害者・障害児童施策推進計画」の事、もっと具体的な事例を聞いてみたかったです。「発達障害者相談支援研修」を都庁勤務者にも幅を広げてもらえたら、仲間の支援員のスキルアップにつながると感じました。今日はありがとうございました。

- 発達障害と関わる法律である発達障害者支援法や、障害者総合支援法との関わりなど広く学ぶことができてよかったです。

- 制度やその変遷がとても勉強になりました。
- あらためて行政のことを知識として知っておくことができた。

アンケート結果

⑦　「成人発達障害と医療」　柏　淳氏

- ASDやADHDの人が、どのように物事を捉える傾向にあるのかとてもイメージしやすかったです。また、ADHDの講義の部分では、現在担当しているADHDの人の、本人が困っている行動が思い浮かび、当事者の言葉を拝見して「本人ももしかしたらこう感じているのかも」と本人の理解を深める機会になりました。

- 発達障害者対応の経験が少なく、学習が不足していたため、本人がどのように感じているか、どのような対策が効果的なのかについて学習する機会になった。今後関わる際に活用したい。

- 特性の背景にあるその理由について、医師の立場から明解に教えていただけてよかったです。また、支援していてアタッチメントの問題を抱える人が多く、大人の発達障害の難しさを整理することができました。

- 発達障害全般について、大略を復習できて有意義でした。私は、産業保健分野で仕事をしております。発達障害ではなく、適応障害やうつ状態と診断され、職場や上司に対する攻撃性（根拠なくパワハラを主張したり異動を要求したりする）を呈する人に、自他の分離の問題をみることが多く、かつ休業が長期化しがちです。DSM的な診断基準にあてはめる以前に、診断・治療・支援の各領域において自我発達に視点を当てる必要を感じています。

- 資料が分かりやすく、専門的な用語を使いながらも砕いてお話をして下さったので、私のような新参者でもすぐに理解出来た。

アンケート結果

⑧　「発達障害と教育」　星山　麻木氏

- 多様性の尊重には、教育が必要不可欠だと思いました。それも、こども達は教育を受ける機会があり、吸収していきやすいですが、大人が新しい概念を身につけていくことの方が大変なことだと感じました。だからこそ、ソーシャルインクルーシブという枠組みの中で、地域社会の人達が実践を通して学んでいける機会が必要だと考えました。今回の、こどもへの教育の実践のお話を通して、成人をした人が生きやすく社会の中で暮らしていくために必要なことを学べたと思います。

- 諸外国との教育格差を感じました。幼稚園で１クラスに２割の支援を必要とする子どもたちがいる状況がありますので、とても参考になりました。小学校に上がる前にいかに保護者支援をして医療や支援センターにつなぐことが出来るかが鍵になるのではないかと考えます。

- 自分の世代は、多数派に合わせる、あるいは努力すればできるようになるといった考え方をしてきた。多数派に近づくことではなく、良いところに視点を置き伸ばしていくという考え方が重要なのだと学んだ。発達障害がベースにあり、努力でできるようになるという子供たちだけではないこと理解はしていたが、自分の中に落とし込めていなかったように感じる。「かなわね」の講義は印象的であった。

- インクルーシブ教育の具体的な方法をお聞かせいただけてよかったです。先生の40年間のご経験からくる確信と熱意を感じられました。ただ、得意を生かす教育は大変重要ですが、だからと言って将来的に夢見る分野で活躍できる人は少数です。ギフテッドブームにあやかって、そうした幻想を抱く親御さんが増えている印象があります。『かなわね』は大変よい絵本ですが、作者について、世界的なアーティストになったという話は、ない方がシンプルに内容が入ってくる気がしました。

- ご経験から積み上げた支援の視点や工夫について、これから取り入れて行きたいと思います。年齢を問わず、つまり乳幼児から老人に至るまで、対人支援の根本に「承認」が必要だと感じています。相手の存在を認めることなしに、アセスメントから入っても「支援が入らない」状態になりがちです。このことは支援者養成の問題でもありますが、自分自身でも常に肝に命じておきたいと思います。

中　間　総　括（１）

アンケートから見える課題及び改善点

①

コロナ禍以降、オンライン開催としたが聴講者には概ね好評であった。その理由としては、移動がなく適切な環境で受講できる、職場で受けられるので勤務の調整がしやすい、コロナ禍を考えると安全な状況で聴講が可能、周囲の参加者に気を遣わず集中して受けられる等の前向きの意見が多かった。ZOOMへの入室についてはトラブルなくスムーズに入室が出来ており、事務局への問い合わせも年々減少している。課題としては、質疑応答が出来ない、アーカイブ配信や見逃し配信があれば、好きな時間に見る事が出来る、繰り返し聴講する事で理解が深まるなどの意見があった。また、操作が不慣れなため聴講できるか不安感が高かった事や、聴講者側のネット環境、パソコン状況のトラブルもあがっていた。音声が聞き取れにくい講師がおり、個々の講師のＷｅｂ環境の確認をしてほしいなどの課題もあがった。

②

参加状況としては相談支援研修は各回200名程度の申し込み、医療研修は100名程度にとどまった。各回通じて申込者に比較し参加者は70％から80％となっている。例年の事ではあるが、定員を超えた申し込みがあっても、実際には30％近くの方が受講しておらず課題となっている。研修の申し込み方法についてはこくちーず、東京都からの案内、正夢の会ホームページなどが多かった。中には医師会からのお知らせもあったが数は少なく、医療関係機関を通した告知を検討していきたい。医師、看護師の聴講は各回30名を超す参加となってきたが、今後も医療スタッフの参加を増やす取り組みが求められる。開催日程や時間については、満足度が高かったが、中には平日開催や夜間開催を求める声も少数あった。

中　間　総　括（２）

③

今後希望するテーマや要望について、アンケート上で項目ごとに多くの前向きな意見が出されており、今後もこの研修への期待度の高さが窺われる。特に現場での直接支援にかかわる内容の希望が多く、まだ発達障害分野での研修の充実が望まれている。例えばアセスメントツールへの希望は多く、現在はPARS－TRのみを解説しているが、心理検査や発達検査の解釈の仕方（結果の読み方）についてKABC-ⅡやWISC-Ⅴ、新版K式発達検査-2020、Vineland-Ⅱ、等、より現場での成果が出せる内容が求められている。

④

①で述べたように対面より、オンライン希望が多かったが、中には事例検討や、事例を上げながらのアセスメントツールの解説など、対面での効果が高い内容の希望も見られた。中でも事例検討についての要望は、各回でいくつか見られ、加えて質問によるやり取りを望む声も多く、双方向の研修を望む声が増えてきている。

中　間　総　括（３）

⑤

講師の経験値の深さ、専門性の高さが研修の中から窺え、聴講者から高い評価を得ており継続してこの研修を受けたいという希望がアンケートに多数あった。特に医療、教育、福祉の垣根を超えた講義内容は、現場スタッフが求める支援観にも繋がり、解りやすい秀逸で貴重な研修と聴講者が表現する研修となっている。また発達障害の理解や基礎知識から支援方法まで、多方面からの講義が好評を得ており、聴講者がそれぞれの分野で、専門性を深め、実際の支援に生かし、利用者支援のレベルアップに繋げる事が研修のねらいとなっている。現場で支援に困難を感じているスタッフは多く、この研修の中で、気づきや指針を得て、当事者が必要とする支援を実現するための研修に繋げられるよう、今後も講師との連携を深め内容の充実を図りたい。今後もアンケートを通じて、聴講者の現状や希望を吸い上げ研修に反映させていきたい